

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾 4 6 1 - 1
電話 0267-67-2460

2025 (令和8) 年

仏暦2569年

9月号

(第180号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホッがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



法住 話職

今は末法の世の中



正信念仏偈に学ぶ
三不信誹
像末法滅同悲引
三不信の誹難にして、
像末・法滅同じく悲引す。

「現代語訳」
三信と三不信の教えを懇切に示し、正法・像法・末法・法滅、いつの時代においても、本願念仏の法は変わらぬ人々を救い続けることを明かされる。

道綽禪師は「今の時は仏果をさとりたい」と言われて、行を修めてさとりを得るのではなく浄土の教えをすすめるため「像末法滅」という仏教の時代感覚の流れがあつたからでした。仏教の教えは正像末という時代を経て、やがて滅するといわれるのです。お釈迦さまが亡くなられて五百年間は「正法」といわれ、教えが正しく残り、その教えにもとづいて修行もさ

れ、そしてさとりも得られる正しく伝わっている時代です。

そして、その後の千年間は「像法」といわれ、形（像）ばかりの教えと修行になり、さとりを得るものなどいなくなる時代です。

さらにその後の一万年間は「末法」といわれ、なんとか教えは伝わってきたが、正しい修行もできずさとりも得られない時代です。今は末法の時代です。

その中で道綽禪師は、お釈迦さまが亡くなられて千五百十一年目に生まれられました。末法の時代に入ったばかりのところでした。そういった仏教の時代の節目に直面された道綽禪師は、これからは本願念仏の法こそ人々が救われる道であるとすすめられたのでしよう。

また「三不信」の教えについて、親鸞さまは『高僧和讃』二首に続けて述べられています。

名号のいわれの通りに行を修めないということを、

曇鸞大師は、「一つには疑いがあつて信心が薄くない。ある時は往生できると思い、ある時はできないと思うからである。だから、二つには信心が一つでない。信が決定していないからである。だから、三つには信心が相続しない。他の思いがまじるからである」といわれている。

曇鸞大師の「三不信」の教えです。この教えを受けて、道綽禪師は三つをそなえた「三信」を示されました。信心は、疑いや二心あつてはならず、さらに続かなくてはならないと言われるのです。

「仏教だからどこでも一緒ですよ」といわれることがあります。何か客観視されているようで末法の時代を感じる言葉でもあります。宗派が違ふと教えも異なり、救われる道が違ふのです。道綽禪師、そして親鸞さまは仏教の教えの中でも、本願念仏の教えをすすめられたのでした。



仏教語豆事典

一味

その味はいったい何味？

釈迦の御法は唯一つ
一味の雨にぞ似たりける
三草二木は品々に

花咲き実なるぞあはれなる

『梁塵秘抄』の「一味の雨」の詩です。

三草二木とは、小・中・上薬草（三草）と小・大樹（二木）で、これらは大小の差はあっても、みな慈雨に潤されて育ち、薬用になるのです。

このように、仏法は貴賤・男女・大小に関わりなく平等無差別であることを、一味といいます。それはちょうど海水がすべて同一の塩味であるのにたとえたものです。

「凡夫も聖者も、みな本願海に入れば、どの川の水も海に入ると一つの味になるように、等しく救われる」という意味でしょう。雨は、すべてを潤す意味で、「一味の法の雨」ともいいます。

『正信偈』に「如衆水入海一味」とありますね。

そこから、一味同心（心を一にして味方をする）一味徒党（同志の仲間）などの語句が生まれました。しかし、悪党の一味などは穏やかではありませんね。



一念発起

「一念発起菩提心」の略

「一念発起して今日から禁煙することに決心しました」などというように、一念発起とは、思い立ってあることを成し遂げようと決心することをいう言葉です。

この一念発起が仏教語なのです。

また、催し物を主になって計画し、人びとに呼びかける世話人を「発起人」といいます。

『華嚴経』に、「一念発起菩提心」とあります。

「仏に帰命する一念を起こし、菩提（悟り）に向かう心を起こす」という意味で、「発菩提心」と同じ意味です。

浄土真宗では、「阿弥陀仏の本願を信じる心がはじめて起こること」をいいます。阿弥陀仏より回向された信心がはじめて獲得された瞬間です。

さて、新しい年を迎えて、なにか一念発起してはじめてみませんか。



「くらしの仏教語豆事典」文・辻本敬順 絵・寄藤文平／本願寺出版社より

編集後記

今月は、秋雨前線の影響で、日照時間が少なかった月でした。こんなに日差しが恋しいのも久々でした。ですから、作物の生育にも影響が出て、また値上がるようです。◆あれもこれもと物価高が問題になっていきます。何かしら対策をしないと更なる格差社会の広がりを心配します。



年忌法要表

1 周忌	2025 (令和 7) 年	23 回忌	2004 (平成16) 年
3 回忌	2024 (令和 6) 年	25 回忌	2002 (平成14) 年
7 回忌	2020 (令和 2) 年	27 回忌	2000 (平成12) 年
13 回忌	2014 (平成26) 年	33 回忌	1994 (平成 6) 年
17 回忌	2010 (平成22) 年	50 回忌	1977 (昭和52) 年